

令和 5 年度決算概要説明書

令和 6 年 8 月 2 8 日

令和５年度の一般会計及び特別会計並びに公営企業会計の決算の認定をいただくに当たり、決算の概要を申し上げます。

【 総 括 】

長引く新型コロナウイルス感染症の影響が緩和され、社会経済活動が少しずつ動き始めたものの、燃料費や物価の高騰など厳しい状況が続いている中で編成した本市の令和５年度一般会計当初予算は、「新しい伊東スタイルへの挑戦～躍動するまちへ～」を市長経営方針に位置付け、公約に掲げた「未来を拓く取組」の３本柱である「みんながつくる伊東市」、「みんなが楽しい伊東市」、「みんなが暮らす伊東市」に係る事業の一層の進展と人も経済も活力にあふれた躍動するまちの実現に向け、新しい時代に対応した持続可能かつ柔軟な市政運営を見据え、国際観光温泉文化都市としての発展と安全・安心な市民生活の両立を目指した編成といたしました。

歳出においては、サマーレビューで見直した事業費を予算要求額の上限とする中で、移住者住宅資金貸付金利子補給事業を始めとした人口増加策、入学祝金贈呈事業や市立幼稚園給食実施事業などの子育て支援策、観光基本計画策定事業や城ヶ崎海岸遊歩道整備事業などの観光施策、キャッシュレス決済ポイント還元事業や商店街賑わい創出イベント補助事業などの地域経済の活性化策のほか、新図書館建設事業、スクールバス運行事業などに重点的に配分することといたしました。

その結果、一般会計の予算規模を、前年度を４．２％上回る２８３億円とし、その後、子育て世帯生活支援特別給付金給付事業、価格高騰重点支援給付金給付事業、給付型商品券事業、キャッシュレス決済ポイント還元事業などの物価高騰対策事業のほか、地方交付税の増額や後期高齢者医療事業等社会保障関係の特別会計に対する繰出金の増額など、７回にわたる補正を行い、最終予算規模を３３６億１，７０９万４，０００円といたしました。

執行に当たりましては、常に国県の動向や経済情勢を注視しつつ、効果的・効率的な執行に意を注ぎ、山積する課題に積極的に対応し、物価高騰に対しても、対話を基に市民の皆様との融和を図る中で、万全の対策を講じるとともに、本市の発展に向け努力してまいりました。

以上、令和５年度の予算編成から決算までの背景を申し上げます。

引き続き、決算の内容につきまして説明いたします。

一般会計における歳入決算額は、３３０億９，１７３万８，０００円で、対前年度比５．８％の増となり、歳出決算額は３１５億２，５３６万５，０００円で、執行率は９３．８％、対前年度比４．５％の増となりました。

歳入歳出差引額は１５億６，６３７万３，０００円となり、生活環境向上対策事業や物価高騰対策事業などの繰越明許により、翌年度へ繰り越すべき財源５億１，３４４万９，０００円を差し引いた実質収支額は、前年度を２１．８％上回る１０億５，２９２万４，０００円となりました。

歳入決算につきましては、自主財源では、繰越金が対前年度比で１８．３％下回ったものの、大きな比重を占める市税が対前年度比で０．９％、ふるさと伊東応援寄附金が増加したことにより寄附金が対前年度比で３７．４％、競輪事業収入が増加したことにより諸収入が対前年度比で１２２．５％、繰入金が対前年度比で１２９．６％上回り、自主財源全体では、対前年度比１３．６％の増加となっております。

依存財源では、法人事業税交付金が対前年度比で２２．３％、地方交付税が対前年度比で４．２％上回ったものの、国庫支出金が対前年度比で５．９％、臨時財政対策債の減により市債が２０．６％下回ったことなどから、依存財源全体で、対前年度比１．２％減少しており、歳入全体では、対前年度比で５．８％増加しております。

歳出決算につきましては、経常経費において、物件費が１．５％、補助費が３．１％減少しているものの、維持補修費が６．７％、価格高騰重点支援給付金給付事業などにより扶助費が対前年度比９．９％増加しております。

投資的経費につきましては、普通建設事業において、介護サービス提供体制整備促進事業や緊急輸送ルート沿道建築物耐震化助成事業などを実施したものの、放課後児童クラブ建設事業や新図書館設計事業などが完了したことから、対前年度比で２．１％減少しております。

また、私が公約に掲げた「未来を拓く取組」の３本柱を実現するため、地域タウンミーティングや「市長への手紙」、未来ビジョン会議を引き続き開催し、その中で市民の皆様からいただいた御意見に対し迅速に対応するなど、ボトムアップによる市政運営に精力的に取り組んでまいりました。

新型コロナウイルス感染症や物価高騰による市内経済の落ち込みを防ぐため、給付型商品券事業、キャッシュレス決済ポイント還元事業、伊東温泉宿泊促進事業を実施するとともに、貨物運送事業者支援給付金や経済変動対策資金貸付金利子補給金などにより、事業者支援、雇用の維持に引き続き努めました。

以上が、一般会計歳入歳出決算の概要であります。

本市の財政は、これまで継続的に実施してきた様々な改革への取組により、適正とされる規模の黒字を確保するとともに、競輪事業収益金活用基金や文化施設整備基金への積立てなど、将来を見据えた財源の確保を図ることができていることなどから、健全化判断比率や経常収支比率、実質収支比率などの財政指標も含め、その健全性は維持できているものと判断しております。

一般会計及び特別会計並びに公営企業会計の決算の概要につきましては、引き続き、担当部長から説明いたします。

私は、これまで「有言実行！！みんなとともに」を基本理念に、「伊東の魅力を発信し、文化を高め、観光の振興と産業の育成によって、みんなが夢を形にできる未来を拓く」施策の推進にまい進してまいりました。これからも市民の皆さまを始め、本市に関わりのあるすべての方々と知恵を出し合い、全員参加で未来を見据えた新しい伊東スタイルの構築に向け、市民のため、本市の発展に努めてまいる所存であります。

最後になりましたが、本決算につきまして、認定いただくようお願い申し上げますとともに、本決算の意義を真摯に受け止め、市民の皆様や議員各位からの貴重な御意見、御指導をいただきながら、最善の努力をしてまいりたいと存じます。